

109.もしかれらが、背き去れば言っでやるがいい。「わたしは（あなたがたに）同じように宣教した。だがあなたがたに約束されたことが、近いか遠いかわたしは知らない。

110.本当にかれは、露な言葉を聞き知っておられる。またあなたがたの（心に）隠すことも知っておられる。

111.だがわたしは、その（猶予）があなたがたへの試・であるのか、または一時期のための享樂であるのかを知らない。」

112.かれは言った。「主よ、真理によって御裁き下さい。わたしたちの主は、あなたがたが口に出す（冒(演?)）に対する御助けを御願い出来る慈悲深い方であられる。」

SURA 22.巡礼章〔アル・ハッジ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.人びとよ、あなたがたの主を畏れなさい。（審判の）時の震動は、全く一重大事である。
- 2.その日あなたがたは見るだろう。凡ての哺乳する者は、哺乳することを忘れ、凡ての妊婦はその胎児を流し、また人びとは酔わないのに、酔いしれたように見えよう。思うに、アッラーの懲罰が厳しいからである。
- 3.だが人びとの中には、知識もなくアッラーに就いて批判する、反抗的な悪魔などに従う者もいる。
- 4.かれ（悪魔）に就いては、こう定められる。「誰でもかれを友とする者があれば、かれはその者を迷わせて、炎の懲罰に導くのである。」
- 5.人びとよ、あなたがたは復活に就いて疑うのか。われがあなたがたを創るさいには先ず土から始め、次いで精液の一滴、次いで血の固まりとし、更に形をなした。また形をなさない肉魂から（あなたがたを創った）。あなたがたに（わが偉力を）明示するためである。われは欲する者を、定めた時期まで胎内に置き、それから赤ん坊としてあなたがたを出生させ、それから成年に到達させる。あなたがたの中或る者は（若くして）死なせる者もあり、また或る者は何がしかを知った後、凡て忘れ去る程に弱まる老齡に返される者もある。またあなたは大地が枯れて荒れ果てるのを見よう。だがわれが一度それに雨を降らせると、（生気が）躍動し膨らんで、凡ての植物が雌雄で美しく萌え出る。
- 6.これはアッラーこそ真理であり、死者に生を与え、凡てのものの上に全能であられるからである。
- 7.本当に、（審判の）時はやって来る。それに就いて疑いの余地はない。本当にアッラーは、墓の中の者を甦らされるのである。
- 8.だが人びとの中には、アッラーに就いて知識もなく、導きもなく、また光明の啓典もなく、戯に批判し、

9. 倣限な態度をとって、人びとをアッラーの道から迷わせようとする者がある。かれらは現世において、屈辱をなめ、またわれは審判の日に炎の懲罰を味わせる。
10. (その時言われよう)。「これは、あなたの手がやったことの報いである。アッラーはそのしもべたちに対し、決して不正をなされない。」
11. また人びとの中に偏見をもって、アッラーに仕える者がある。かれらは幸運がくれば、それに満足している。だが試練がかれらに降りかかると、顔を背ける。かれらは現世と来世とを失うものである。これは明白な損失である。
12. かれらはアッラーを外にして、自分に害もなくまた益もないものに祈る。これは遠く迷う者である。
13. かれらは自分を益するものよりも、害の方に近いものに向かって祈る。何と悪い保護者であり、悪い仲間であることよ。
14. アッラーは、信仰して善い行いに動しむ者を、川が下を流れる樂園に入らせられる。本当にアッラーは御望・のこを行われる。
15. アッラーは現世でも来世でも、かれ(使徒)を助けられないと考える者があれば、かれに天井に縄を張らせて・るがいい。それから(自らを地面から)切り離して・るがいい。(首を棚ること。)それでかれのその行為が、かれの怒りを取り除くことが出来るものか、よく眺めさせて・るがいい。
16. このように、われは明白な印(クルアーン)を下した。本当にアッラーは御望・の者を導かれる。
17. 本当に(クルアーンを)信じる者、ユダヤ教を奉じる者またサービア教徒、キリスト教徒、拝火教徒そして偶像信者たち、アッラーは審判の日に、かれらを裁決なされる。本当にアッラーは凡てのこことの立証者であられる。
18. あなたは見ないのか、天にある凡てのものが、アッラーに、サジダするのを。また地にある凡てのものも、太陽も月も、群星も山々も、木々も獣類も、また人間の多くの者がサジダするのを見ないのか。だが多くは懲罰を受けるのが当然な者たちである。またアッラーが見下げられた者を、誰も尊敬することは出来ない。本当にアッラーは御望・のこを行われる。〔サジダ〕
19. これら両者は、かれらの主に就いて論争する敵手である。それで(主を)拒否する者のために仕立てられるのは、炎の衣装であろう。かれらに頭上から熱湯が注がれて、
20. 腹の中の物も皮膚も、それで溶かされるであろう。
21. その上、かれらには鉄の鞭が加えられる。
22. 苦しきのため、そこから出ようとする度に、その中に押し戻され、「火炙りの刑を味わえ。」(と言われよう)。

- 23.本当にアッラーは、信仰して善行に励む（外の一団の）者を、川が下を流れる楽園に入らせる。かれらはそこで、黄金の腕輪と真珠に飾られ、衣装はそこでは絹（ずくめ）であろう。
- 24.かれらは純正な言葉に導かれ、讚美すべき方の道に導かれる。
- 25.本当に信仰を拒否した者、（人びとを）アッラーの道から妨げる者、そこ（マッカ）の居住者であろうと、外来者であろうと凡て、われが人びとのために建立した聖なるマスジド（に入ることを拒否する者、そしてその中で神聖を汚し不義を企む者には、われは痛ましい懲罰を味わせるであろう。
- 26.われがイブラーヒームのために、（聖なる）家の位置を定め（こう言った）時のことを思いなさい。「誰も、われと一緒に配してはならない。そしてタフーフ（回巡）する者のため、また（礼拝に）立ち〔キヤーム〕、立礼〔ルクーウ〕しサジダする者のために、われの家を清めよ。
- 27.人びとに、巡礼〔ハッジ〕するよう呼びかけよ。かれらは歩いてあなたの許に来る。あるいは、どれも痩せこけているラクダに乗って、遠い谷間の道をはるばる来る。
- 28.それは自らの（現世と来世の）御利益に参加し、また定められた日の間、かれがかれらに与えられた（犠牲の）家畜の上にアッラーの御名を唱え、それから『あなたがたはそれを食べ、また困窮している者にも食べさせなさい。』
- 29.それからかれらの必要な儀式を終え、誓いを果し、そして古来の家（カアバ）を、タフーフしなさい。」
- 30.以上（が巡礼の定め）である。アッラーの神聖（な儀式）を順守する者は、主の御許では最も善い者である。それから家畜は、あなたがたに読・聞かされたものを除き、（巡礼中の食料として）合法である。それで偶像の汚れから離れ、虚偽の言葉を避けなさい。
- 31.アッラーに純正に服従、帰依し、神々をかれに配してはならない。アッラーに神々を配する者は、丁度天から落ちて鳥に攫われた者のようである。または風が、かれを遠い所に吹き攫った者のようである。
- 32.以上（が定め）である。アッラーの儀式を尊重する態度は、本当に心の敬虔さから出てくるもの。
- 33.それら（の家畜）は、定め期限まで、あなたがたに役立てたうえ古来の家（カアバ）の近くで犠牲として捧げられるのだから。
- 34.われは凡てウンマの（供儀の）儀式を定めた。かれが授けられる4つ足の家畜の上に、アッラーの御名を唱えなさい。本当にあなたがたの神は、唯一の神であられる。だからかれに服従、帰依しなさい。あなたは、謙虚な者たちに吉報を伝えなさい。
- 35.これらの者は、アッラーの御名が唱えられる時、心は畏怖に満ち、遭遇することによく耐え忍び、礼拝の務めを守り、またわれが授けたものを施す者たちである。

- 36.また（犠牲の）ラクダ（や牛）を、われはあなたがたのためアッラーの儀式用とした。それらにはあなたがたへの（多くの）利益がある。（犠牲に供えるに当り）並べて、それらの上にアッラーの御名を唱えなさい。そしてそれらが横ざまに倒れ（動かなくなつ）たならば、あなたがたはそれを食べ、また口に出して請わない者、物請いする者たちに食べさせなさい。このようにそれらをあなたがた（の用）に供させるのもあなたがたに感謝の念を起させるためである。
- 37.それらの肉も血も、決してアッラーに達する訳ではない。かれに届くのはあなたがたの篤信〔タクフー〕である。このようにかれは、それらをあなたがた（の用）に供させるが、これはあなたがたへのかれの導きに対し、アッラーを讃えさせるためである。善い行いの者たちに吉報を伝えなさい。
- 38.本当にアッラーは、信仰する者を守護なされる。アッラーは、裏切り者、恩を忘れる者を御好・になられない。
- 39.戦いをし向ける者に対し（戦闘を）許される。それはかれらが悪を行うためである。アッラーは、かれら（信者）を力強く援助なされる。
- 40.（かれらは）只「わたしたちの主はアッラーです。」と言っただけで正当な理由もなく、その家から追われた者たちである。アッラーがもし、或る人びとを外の者により抑制されることがなかったならば、修道院も、キリスト教会も、ユダヤ教堂も、またアッラーの御名が常に唱念されているマスジド（イスラームの礼拝堂）も、きっと打ち壊されたであろう。アッラーは、かれに協力する者を助けられる。本当にアッラーは、強大で偉力ならびなき方であられる。
- 41.（かれに協力する者とは）もしわれの取り計いで地上に（支配権を）確立すると礼拝の務めを守り、定め喜捨をなし、（人びとに）正義を命じ、邪悪を禁ずる者である。本当に凡ての事の結末は、アッラーに属する。
- 42.仮令かれらが、あなたを虚言の徒であるとしても、かれら以前にも、ヌーフの民も、アードもサムードも（その預言者を）信じなかった。
- 43.またイブラーヒームの民も、ルートの民も、
- 44.マドヤンの住民も（信じなかった）。またムーサーも拒否された。それでもわれは不信者に猶予を与え、結局かれらに懲罰を与えた。われの拒否はどんなものであったのか。
- 45.われはをかれらが悪を行っている間に、如何に多くの町を滅ぼしたことであろうか。それらは、屋根を下にして倒れ潰れた。また（如何に多くの）井戸や堅固な城が見捨てられたことであらうか。
- 46.かれらは心に悟りが開けるよう、またその耳が聞くように、地上を旅しなかつた。本当に盲人となったのは、かれらの視覚ではなく、寧ろ胸の中の心なのである。
- 47.かれらはあなたに、すばやい懲罰を求める。だがアッラーは約束に背かれない。本当に主の御許における一日は、あなたがたの計算する千年に当る。

- 48.われは、如何に多くの悪を行う都市を猶予し、それからこれらを処罰したことであろうか。帰り所はわれの許にあるのである。
- 49.言ってやるがいい。「人びとよわたしは、あなたがたにはつきり警告する（ため遣わされた）者である。」
- 50.信仰して善行に勤しむ者は、御赦しと栄誉ある糧を与えられる。
- 51.だがわが印を虚しくするように努める者は業火の仲間である。
- 52.あなた以前にわれが遣わした使徒や預言者でも、何か望・をもつと、悪魔がその欲望を唆したものであった。だがアッラーは、悪魔の誘惑を無にされ、御自分の印を堅固になされた。本当にアッラーは全知にして英明であられる。
- 53.かれは、悪魔の誘惑で、心に病のある者、心の頑固な者を試・なされる。本当に悪を行う者たちは、（真理から）遠くかけ離れる。
- 54.また知識を与えられている者たちは、この（クルアーン）があなたの主からの真理であることを知り、心を謙虚にしてそれを信じる。本当にアッラーは、信仰する者たちを正しい道に導かれる方である。
- 55.信仰のない者はそれに就いて疑いを抱き続けよう。（審判の）時が、突然かれらに襲いかかるか、災厄の日の懲罰が来るまでは。
- 56.その日、大権はアッラーの有である。かれは、かれらの間を裁かれる。それで、信仰して善い行いをした者は、歓喜の楽園に入る。
- 57.背信して、われの印を虚偽であるとした者には恥すべき懲罰がある。
- 58.アッラーの道のために移住し、その後（戦いで）殺され、または死んだ者には、アッラーは必ず善美な糧を与えるであろう。本当にアッラーこそは、最も優れた給養を与える方であられる。
- 59.かれは、必ずかれらが喜ぶ所に入らせられる。本当にアッラーは全知にして聡明な御方である。
- 60.それは（こうである）。誰でも自分が被ったものと同じ報復をしたのに、また不当な仕打ちをされるならば、アッラーは必ずこの者を助けなされる。本当にアッラーは寛容にしてよく赦される御方である。
- 61.それは、アッラーが夜を昼の中に割り込ませ、また昼を夜の中に割り込ませるためである。本当にアッラーは全聴にして全視であられる。
- 62.これも、アッラーこそ真実であり、かれらがかれ以外に祈るものが偽りの（神の）ためである。本当にアッラーは至高にして至大であられる。

- 63.アッラーが天から水（雨）を降らせられれば、大地が緑になるのをあなたは見ないのか。本当にアッラーは親切にして知悉される御方である。
- 64.天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。アッラー、本当にかれは、満ち足られる御方、讃美されなべき御方である。
- 65.あなたは見ないのか。アッラーは地上の凡てのものをあなたがたに従わせ、かれの命令によって、船を海上に走らせられる。また天をかれの御許しなく地上に落ちないように支えられる。本当にアッラーは人間に、優しく慈悲を垂れられる御方である。
- 66.かれこそはあなたがたに生を授け、間もなく死を与え、それからまた甦らせられる方である。本当に人間は恩を忘れる。
- 67.われは凡てのウンマに守られるべき儀式を定めた。それでこれに関し、かれらにあなたと論争させてはならない。あなたの主に（かれらを）招きなさい。本当にあなたは、正しい導きの上にいる。
- 68.かれらがもしあなたがたと論争するならば、言ってやるがいい。「アッラーは、あなたがたの行うことを最もよく知っておられる。
- 69.アッラーは審判の日に、あなたがたがそれに就いて相違したことに、あなたがたを裁かれる。」
- 70.あなたはアッラーが、天にあり地にある一切を知っておられることを知らないのか。それは凡て記録に載せてある。それは、アッラーにおいては容易なことである。
- 71.かれらはアッラーを外にして、何の権威も授かっていないもの、またそれに就いて何の知識もないものを崇拜している。悪を行う者には援助者もない。
- 72.われの明瞭な印が読誦される時、あなたは信仰しない者たちの顔に、拒絶の色が浮かぶのを認めるであろう。かれらにわが印を読誦する者に向かって、攻撃を加えようとさえする。言ってやるがいい。「わたしはそれよりも更に悪いものを、あなたがたに告げようか。それは火獄である。アッラーは信仰しない者たちに、それを約束なされる。何と悪い住居であることよ。」
- 73.人びとよ、一つの比(輪?)を説くから、それを謹んで聞きなさい。本当にあなたがたがアッラーの外に祈るものは、仮令かれらが束になっても、一匹の蠅（さえ）も創れない。また蠅がかれらから何か奪い去っても、それを取り戻すことも出来ない。祈る者も、祈られる者も、全く力がないのである。
- 74.かれらは、アッラーの真価の程を評価していない。本当にアッラーは強大にして偉力ならびなき御方である。
- 75.アッラーは、天使と人間の中から、使徒を選ばれる。本当にアッラーは全聴にして全視であられる。

76.かれは、かれらの前にあるものも、かれらの後ろに有るものをも知っておられる。アッラーの御許に（凡ての）事物は帰されるのである。

77.あなたがた信仰する者よ。立礼〔ルクウ〕しサジダして、あなたがたの主に使えなさい。そして善行に動しめ。必ずあなたがたは成功するであろう。〔サジダ〕

78.アッラーの（道の）ために、限りを尽くして奮闘努力しなさい。かれは、あなたがたを選ばれる。この教えは、あなたがたに苦業を押しつけない。これはあなたがたの祖先、イブラーヒームの教義である。かれは以前も、またこの（クルアーン）においても、あなたがたをムスリムと名付けられた。使徒はあなたがたのための立証者であり、またあなたがたは人びとのための立証者である。だから礼拝の務めを守り、定め喜捨を行い、確りとアッラーに縋りなさい。かれはあなたがたの守護者である。何と優れた守護者、何と優れた援助者であることよ。

SURA 23.信者たち章〔アル・ムウミヌーン〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.信者たちは、確かに勝利を勝ちとる。
- 2.かれらは、礼拝に敬虔であり、
- 3.虚しい（凡ての）ことを避け、
- 4.施し〔ザカート〕のために励み、
- 5.自分の陰部を守る者。
- 6.ただし配偶と、かれらの右手に所有する者（奴隷）は、別である。かれらに関しては、咎められることはない。
- 7.しかし法を越えて求める者は、アッラーの掟に背く者である。
- 8.また信託と約束に忠実な者、
- 9.自分の礼拝を（忠実に）守る者である。
- 10.これらの者こそ本当の相続者で、
- 11.フィルダウス（天国）を継ぐ者である。かれらはそこに永遠に住むのである。
- 12.われは泥の精髓から人間を創った。
- 13.次に、われはかれを精液の一滴として、堅固な住みに納めた。
- 14.それからわれは、その精滴を一つの血の塊に創り、次にその塊から肉塊を創り、次いでその肉塊から骨を創り、次に肉でその骨を覆い、それからかれを外の生命体に創り上げた。ああ、何と素晴らしいアッラー、最も優れた創造者であられる。
- 15.それから後、あなたがたは必ず死ぬ。